

未払・前払

材料や賃金など、工事原価に関する問題では、
「月初未払」「月末未払」「月初前払」「月末前払」「支給額」「消費額」など、
同じような言葉があって混乱してしまい、
足すのか引くのか分からなくなってしまうがちです。

そんな時は、以下の図を思い出しましょう。

原価項目		原価項目	
月初前払	当月発生	当月支払	月初未払
当月支払			当月発生
	月末前払	月末未払	

< 例題① >

外注費の前月前払高が¥20,000、当月支払高が¥100,000

当月前払高が¥30,000 であった。

当月の消費額を求めなさい。

< 図による解答 >

原価項目		外注費	
月初前払	当月発生	20,000	?
当月支払		100,000	
	月末前払		30,000

図より、¥90,000 が正解となります。

< 理屈による解答 >

当月を仮に 6 月として説明します。

「外注費の前月前払高が¥20,000」ということは、

5 月に、外注先の企業に、

「6 月にやってもらう工事の代金として、前もって¥20,000 渡した。」

ということです。

この¥20,000 は、6 月に行う工事の代金ですから、6 月の工事原価に含まれます。

そして、「当月支払高が¥100,000」ということは、

実際に、6 月中に外注先に支払った金額が、¥100,000 ということです。

ただし、「当月前払高が¥30,000」とありますので、

6 月中に支払った ¥100,000 のうち、¥30,000 は、

7 月に行う工事代金を、前もって渡した分だということになります。

従って、 $¥100,000 - ¥30,000 = ¥70,000$ が、6月の工事原価に含まれることとなります。

下線部の金額を合計して、

$¥20,000 + ¥70,000 = ¥90,000$ が正解となります。

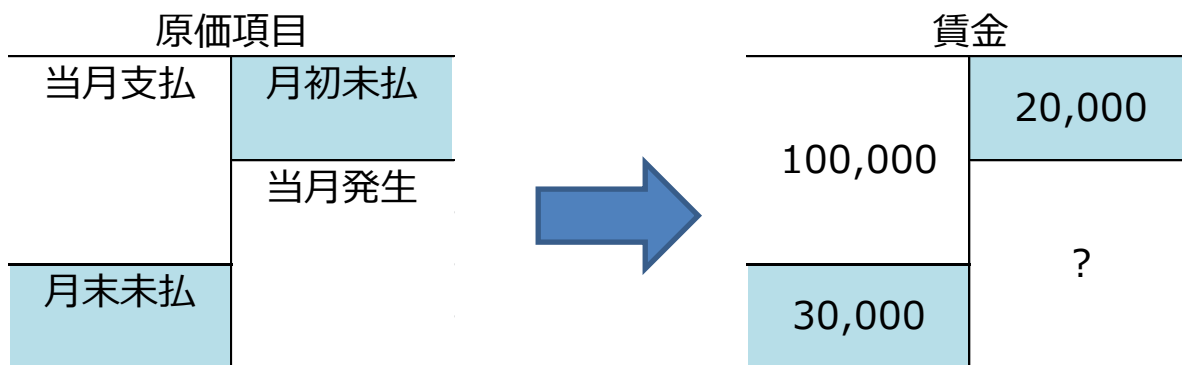
< 例題② >

賃金の前月末払高が¥20,000、当月支払高が¥100,000

当月末払高が¥30,000 であった。

当月の消費額を求めなさい。

< 図による解答 >



図より、¥110,000 が正解となります。

< 理屈による解答 >

当月を仮に 6 月として説明します。

まず、「前月末払高が¥20,000」ということは、

6 月 1 日の時点で、まだ従業員に支払っていない賃金が¥20,000 あるということです。

この¥20,000 は、5 月の労働に対する報酬ですので、6 月の工事原価には含めません。

そして、「当月支払高が¥100,000」ということは、

6 月に従業員に支払った金額が、¥100,000 ということです。

この¥100,000 のうち、¥20,000 は 5 月の未払分ですので、

6 月の労働に対する報酬としては、¥80,000 を支払ったことになります。

さらに、「当月末払高が¥30,000」ということは、

6 月の労働に対する報酬として、さらに¥30,000 支払う必要があるのに、まだ支払っていないということです。

この¥30,000 は、未払いではあっても、6 月中に発生した費用には間違いないので、6 月の工事原価に含めます。

下線部の金額を合計して、

¥80,000 + ¥30,000 = ¥110,000 が正解となります。

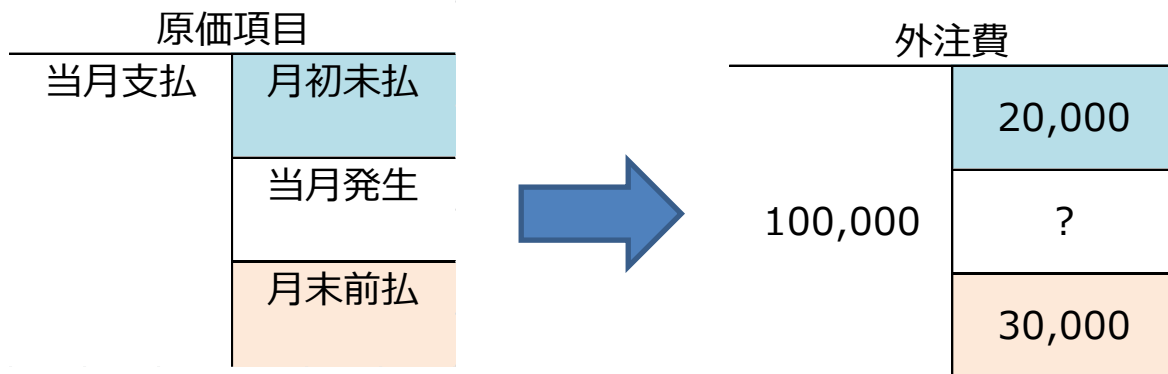
< 例題③ >

外注費の前月末払高が¥20,000、当月支払高が¥100,000

当月前払高が¥30,000 であった。

当月の消費額を求めなさい。

< 図による解答 >



図より、¥50,000 が正解となります。

< 理屈による解答 >

当月を仮に 6 月として説明します。

「外注費の前月末払高が¥20,000」ということは、
5 月に工事してもらった代金のうち、¥20,000 をまだ渡していない。
ということです。

この¥20,000 は、5 月に行った工事の代金ですから、6 月の工事原価には含めません。

そして、「当月支払高が¥100,000」ということは、
6 月中に外注先に支払った金額が、¥100,000 ということです。

このうち¥20,000 は、5 月分の未払いの支払いであり、
さらに、「当月前払高が¥30,000」とあるので、
¥30,000 は、7 月に行う工事の代金を前もって渡した分だということになります。

結局、6 月の工事原価となるのは、
 $¥100,000 - ¥20,000 - ¥30,000 = ¥50,000$ となります。

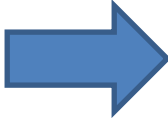
< 例題④ >

外注費の前月前払高が¥20,000、当月支払高が¥100,000

当月末払高が¥30,000 であった。

当月の消費額を求めなさい。

< 図による解答 >

原価項目			外注費	
月初前払	当月発生		20,000	?
当月支払			100,000	
月末未払			30,000	

図より、¥150,000 が正解となります。

< 理屈による解答 >

当月を仮に 6 月として説明します。

「外注費の前月前払高が¥20,000」ということは、

5 月に、外注先の企業に、

「6 月にやってもらう工事の代金として、前もって¥20,000 渡した。」

ということです。

この¥20,000 は、6 月に行う工事の代金ですから、6 月の工事原価に含まれます。

そして、「当月支払高が¥100,000」ということは、

実際に、6 月中に外注先に支払った金額が、¥100,000 ということです。

さらに、「当月末払高が¥30,000」ということは、

6 月に発生した工事代金のうち、¥30,000 はまだ支払っていないということです。

この¥30,000 は、未払いではあっても、6 月中に発生した費用には間違いないので、6 月の工事原価に含めます。

下線部の金額を合計して、

¥20,000 + ¥100,000 + ¥30,000 = ¥150,000 が正解となります。